

クウェート、パレスチナ、レバノンのキュレーター 18日に中東地域の現代美術事情を報告

国際交流基金では、クウェート、パレスチナ、レバノンより4名の学芸員を招へいし、日本の美術についての理解を深めるプログラムを実施します。

東京、金沢、京都、高松などの美術館や文化施設を視察し、関係者とのネットワークを深めるほか、期間中には日本の美術館関係者やメディアを対象とした、招へい者による「中東地域現代美術事情報告会」も予定しています（報告会は記者・関係者限定）。

中東学芸員招へいプログラム 概要

招へい期間 | 2011年2月7日～2月19日の2週間

東京、金沢、京都、大阪、兵庫、岡山、高松の各都市を訪問、美術館訪問、文化施設視察などを予定。

招へい者プロフィール

ABDUL RAZZAK NAZEM ELKADIRI (クウェート)

FA ギャラリーでキュレーター。アーティストとして、人道的・政治的活動を含む作品を発表し、レバノン、クウェート、その他で個展・グループ展にも多数参加している。

KHALED A. M. HOORANI (パレスチナ)

パレスチナ文化省・芸術部の部長を経て、現在インターナショナル・アカデミー・オブ・アートのアーティストティック・ディレクター。アーティスト活動、展覧会のキュレーション、美術批評記事の執筆も。

MAHMOUD M. A. ABUHASHHASH (パレスチナ)

AM カットン財団芸術文化事業部長。若手支援や、パレスチナと各国との文化協力を促進する事業を開催。2009年のシャルジャ・ビエンナーレに批評記事を寄稿。自身による小説や詩は各国語に翻訳されている。

NADIA CHRISTIDI (レバノン)

インディペンデント・キュレーター。ハリッド・ショマン財団で教育普及プログラムの確立に携わり、その間サザビーズ(ロンドン)のアラブ・イラン近代・現代美術部門で研修を受ける。レバノンのアートシーンに関するエッセーも執筆。

「中東地域現代美術事情報告会」

FAX 03-5369-6038

日時 | 2011年2月18日(金) 15:00-17:00 (※記者、関係者のみ)

会場 | 国際交流基金本部 9階セミナー室 (四谷三丁目駅より徒歩5分)

言語 | アラビア語(逐次通訳)

お申込 | FAXで上記までお送りください。

媒体名 _____

お名前 _____

ご連絡先 _____

お問い合わせ | 国際交流基金文化事業部 造形美術チーム 担当:ホイル / 森

電話 03-5369-6062 FAX 03-5369-6038 E-mail haruko_hoyle@jpf.go.jp / Tae_Mori@jpf.go.jp

国際交流基金

〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-4-1

www.jpf.go.jp